



山の川で、石の下の、砂のつつに、うじ虫がいたのは何なの

つつに入っているのは、トビケラの幼虫

山の谷川などで、川底の石をひっくり返すと、小さい石や砂が集まったつつのようなものが、いくつも見つかることがあります。長さが10ミリメートルぐらいの砂や小石の細いつつの中には、足がある、うじ虫が入っています。このつつは、トビケラという虫の幼虫の巣で、水がきれいな所にしか、すんでいません。成虫は、長い触角をもつガのような形で、体長は1～2.5センチメートルぐらいで、夜活動し、明かりに飛んできます。

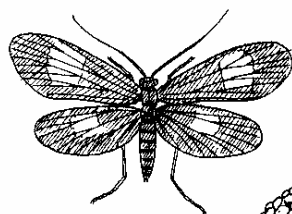
巣の形や材料は、トビケラの種類によって決まっている

トビケラのメスは、水中にもぐって、川底の石に卵を産みつけます。幼虫は、すんでいる場所によって、砂つぶ、小石、木の葉や枝などを糸などでつなぎ合わせ、つつを作り、その中にかくれています。巣の形や材料は、トビケラの種類によって決まっています。

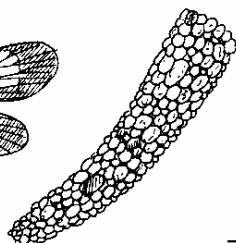
たとえば、角のように下の方が細く、やや曲がっているヨツメトビケラの巣や、小石を集めて作ったものが人形のように見える、ニンギョウトビケラの巣、先が細くなった黒いつつを作る、クロツツトビケラの巣などがあります。

トビケラは、川にすむいろいろな魚やこん虫たちの、えさとして重要な生き物です。

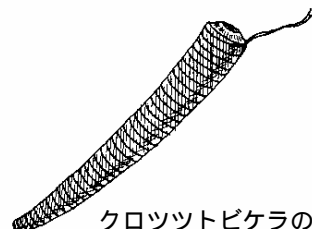
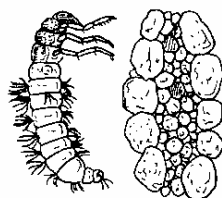
(監修・中山 周平)



ヨツメトビケラと巣



ニンギョウトビケラの幼虫と巣



クロツツトビケラの巣

